

おおたかの森トラスト

埼玉県西部の雑木林で、募金等による雑木林の購入や森の維持管理などを行っています。

■団体の概要

埼玉県西部に広がる雑木林には絶滅の危機に瀕しているオオタカが生息しています。1994年6月、この雑木林を守るために（財）埼玉県生態系保護協会所沢支部が中心になって「おおたかの森トラスト」が誕生しました。おおたかの森は埼玉県所沢市、狭山市、入間市、川越市と大井町、三芳町の四市二町にまたがる合計550haの平地林です。この地域は江戸時代に新田開発が行われ、住民らが畑を乾燥と強い風から守るために屋敷林や大きな雑木林を作りました。薪や炭にするコナラ、クヌギ、アカマツ、農具に使うエゴノキなどを主体にいろいろな樹種からなる森です。農業とともに生きてきた雑木林はオオタカのほか、キツネ、タヌキ、野ウサギなど多くの野生の生き物が棲む豊かな森になりました。現在、この雑木林は開発により少しずつ面積を減らしています。おおたかの森トラストでは、この雑木林を残すために活動しています。これまでの活動が認められ、自然環境功労者環境庁長官表彰などを受賞しています。買い取った森は合計5ヶ所で約0.9haになります。又、借りている森は12ヶ所（約7.6ha）です。

■森の手入れ

枯れ木の伐採や森の下草の手入れを行います。切り取った木は炭焼きに利用したり、「虫元気」（小枝や木の葉で虫たちのすみか）をつくったりします。

■炭焼き

竹炭を作り、それを売って森を買う資金の一部にしたり、焼いた炭を粉にして土壌改良に使ってもらったりしています。また、竹酢液、木酢液を作っています。



募金箱
※おおたかの森トラスト
WEB ページより

■ゴミ拾い

森の中に捨てられたゴミは鳥たちが誤って食べるなどの問題があるので、ゴミ拾いを行っています。

■きのこづくり ～椎茸栽培～

森で切られた木（クヌギやコナラなど）を利用して椎茸などのきのこを栽培して、これを売って森を買う資金の一部にします。

■川の浄化 ～川に炭を入れる～

自分たちで焼いた炭を毎年7月の海の日には砂川堀に入れ、川の水質浄化に役立てます。

■自然再生・復元

苗木を育てたり、植えたりします。また、学校ビオトープ作りのお手伝いもします。

■「こどもエコクラブ」の開催

活動を次世代へとつなげていくために、子供たちと炭焼き・しいたけのコマ打ち・森の生き物調べなどを行っています。